

令和元年度科学技術人材育成費補助事業 データ関連人材育成プログラム (中間評価結果)

(実施期間：平成 29～令和元年度)

実施機関：電気通信大学 (総括責任者：福田 喬)

(1) 評価結果

総合評価	事業の進捗状況	高度データ 関連人材の育成	実施体制の構築	今後の進め方	進展計画
A	b	a	b	b	

総合評価：総合評価：A (所期の計画と同等の取組が行われている)

(2) 評価コメント

目指す人材像として「データアントレプレナー」を掲げている点は非常に分かりやすく、また、第一線のデータサイエンティストによる直接指導は受講生にとって大きなインセンティブとなっており評価できる。一方で、所期の計画で予定されていた他大学等の参画や参画機関との連携が行われていない点について、現時点での実施内容及び今後の計画において有効な改善策が講じられていないため、他大学等の参画や連携、自走化に向けた取組を中心に計画の見直しが求められる。

- ・ **事業の進捗状況**：平成 30 年度における受講者数目標値は 40 名（うち 20 名が博士人材等）であったところ、実際の受講者は 42 名（うち 23 名が博士人材等）であり受講者数の目標は順調に達成しているが、修了者数 18 名（うち 5 名が博士人材等）と博士人材等修了者の割合が少ない点は改善が期待される。所期の計画の中で予定されていた参画機関や連携機関について、現時点で参画や連携が行われておらず、新たな機関との参画や連携も行われていない点は改善が求められる。
- ・ **高度データ関連人材の育成**：プログラムが、基礎学習、対面学習、実践学習のカテゴリ化により、受講者の受講目的が明確になっている点や現役で活躍する第一線のデータサイエンティストが教務補佐 (Team Teaching Assistants: TTA) としてサポートにつき、受講者はデータサイエンティストから直接データ分析手法を実習において学べる点は効果的なスキルの習得につながっており評価できる。一方で、博士人材等の受講者については、情報系学生が大半であり、情報系に限らない分野における優秀な博士人材等の発掘・選抜を今後期待したい。
- ・ **実施体制の構築**：所期の計画で参画機関として予定していた他大学等について、本事業での実施内容や他事業との重複関係を勘案した結果、参画機関から外れているが、現時点ではコンソーシアムにおける博士人材等を育成する観点での新たな他大学の参画がなく、先進的な機関の参画、後発的な機関の取り込みなどが不十分であり実効性のある体制とは評価できない。所期の計画で参画や連携が予定されていた他機関以外の新たな参画、連携先について再検討及び具体的な計画の立案が求められる。
- ・ **今後の進め方**：補助金終了後の取組の継続性・発展性については、審査を通して今後の具体的な方針が見られず、コンソーシアムとしての実施体制の構築、自走化に向けた取組及び本事業が求める大学間連携も含めたデータサイエンス分野の人材を育成するプログラムとしては改善の余地があるため、計画の見直しが求められる。

(注) 博士人材等とは、博士課程学生や博士号取得者等（博士の学位を取得した者又は博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得の上、退学した者（いわゆる「満期退学者」））をいう。